

物語はまだ終わっていない。私の姉を覚えてる？自分の家の瓦礫の下から引っ張り出され、南に向かった彼女を――その方が安全だってあの人たちが言ったから！戦闘休止期間が終わった翌朝、姉の義理の弟に聞かされた。姉が、夫と子どもと一緒に死んだって。イスラエル軍が避難先の居住区を爆撃して、生き残ったのは彼女の 10 歳の長男だけ。その子は爆発の破片で目を負傷した。ショックだった。私の姉、私より2歳年上の大切な姉は、いつも私と一緒にだった。なんでも一緒、職場まで一緒だった。私の姉は殉教者！そう呼ばれるにふさわしい。誰からも愛され、蟻さえ傷つけることができない天使のような人だった。

悪夢はまだ終わっていない。私たちが避難した場所にも戦車が近づき、至る所で砲撃を行うので、家族でガザ市の西側に戻ることにした。戦車が撤退して、安全になったらしいから。そこは電気も水道もなく、人間が住むのには適さない。でも生き延びるための選択肢は、他にない。

私たちは爆撃の下を行き、銃弾が私たちを取り囲むように、周りの地面に炸裂した。私の父は負傷した私の夫を看ている。夫の耳が完全にふさがってしまい、何も聞こえていないので、手術が必要だと気づいた。手術はガザ外の病院でしかできないけれど、そんなのどうしたら！どんな

に努力したところで、北部と南部が完全に断絶された今、私たちはここから出ることができない。

戦争は終わっていない。今週、戦車がガザ市の西側に、私たちの近くに、戻ってきた。私たちは不安だ。彼らは家に入って、老いた男も若い男も殺し、去っていく。でももう逃げる先もないので、私たちはここにとどまることにした。死から死へと逃げているだけで、安全な場所なんてどこにもないのだから。

2024年1月24日 ガザにて

ヒバ・ダーウッド

(翻訳:辻愛麻)

原文(英語):

[https://www.gazamonologues.com/files/ugd/07c7f7\\_ea2ff5055d0a43169c95e2d85f0eaa6f.pdf](https://www.gazamonologues.com/files/ugd/07c7f7_ea2ff5055d0a43169c95e2d85f0eaa6f.pdf)

(アラビア語):

[https://www.gazamonologues.com/files/ugd/07c7f7\\_10d002a5779448e8b18ccd1a7cf544eb.pdf](https://www.gazamonologues.com/files/ugd/07c7f7_10d002a5779448e8b18ccd1a7cf544eb.pdf)

---

<sup>i</sup> ヒバの父は医師である (ガザ・モノログ 2023 「ヒバ・ダーウッドの物語」より)